

株式会社 早和果樹園

革新的サービス

一般型

「有田みかん」の加工を極め、販路拡大への取り組み 有田地域の活性化に貢献し、牽引する企業を目指す

事業内容

温州みかんを軸とした多様な加工品 濃厚な味わいが人を惹きつける

温州みかんの国内有数の産地である和歌山県有田地方に所在する農業6次産業化法人で、1979年(昭和54年)、7戸のみかん専業農家が早和共同撰果場組合を創業。2000年(平成12年)に法人化され、現在では和歌山県内にある果樹農園企業としてはトップクラスの農業法人である。

自社所有の段々畑など8haで、独自開発のみかんや黄金柑などの人気柑橘を栽培している。ICT農業にも取り組んでおり、センサーで収集した気温、降水量、土壌温度などのデータを分析し、高度な管理を行っている。

自社栽培した生果、周辺の農家から仕入れた生果の販売に加え、みかん加工品の製造・販売にも力を入れている。具体的な商品ラインナップとしては、ジュースやゼリー、ジャムなど温州みかんを軸として多様な加工品を製造している。特に、チョッパー・パルパー方式を用いたジュース作りを行う企業はほとんどなく、雑味がなく濃厚な味に仕上がっている。

流通方法は、国内外の高級スーパーや高速道路のサービスエリア、自社サイトによるネット販売、直営店舗の販売など多岐にわたる。

補助事業

消費者の好みに応じた製品作りを推進するため みかん選別の信頼性向上を図る

加工品の製造・販売において、これまでは高価格帯のジュースを中心としてきたが、手に取ってもらいやすい200円台の価格帯に抑えた「飲むみかん」を開発し、市場に投入した。その結果、同社製品のリピーターが下支えとなって、国内外の販売数が増加。2年前100万本であった出荷量が170万本にまで伸びた。

出荷量の増加に伴って、同社の認知度も高まっており、今後の展開としては、消費者の好みに応じた製品作りを進めていく必要がある。その最初の段階として、糖度のみかんを選別して仕分けすることが欠かせない。みかんの品質の選別が上手くできれば、仕入効率も高まり、糖度を明確に示した状態で製品を販売することも可能となる。

同社では、10年ほど前から廉価版の光センサー選果機を保有していたが、選別基準が曖昧な場合もあり、外観や

大きさ、品種など多岐にわたる加工用みかんの選果機としては不十分であった。そこで、今回の補助事業では、最新型の光センサー選果機を導入し、選別の信頼性向上を図った。



▲光センサー選果機

株式会社 早和果樹園

代表取締役社長 秋竹 俊伸
〒649-0432 有田市宮原町東349-2
TEL: 0737-88-7279 FAX: 0737-88-7218
URL: http://sowakajuen.com

(業種)みかん及び同加工品製造
(創業)1979年
(資本金)85,020千円
(従業員)57人(役員含む)

成果

選別→搾汁→製品づくりがスムーズに さらに細かい分類を目指す

導入した光センサー選果機は、過去のデータの蓄積もあり、調整後にはスムーズに糖度仕分けを行うことができ、仕分けられた加工用みかんの搾汁も順調に進んだ。旧型の光センサー選果機を使っていたこともあり、特段戸惑うこともなかった。

具体的な成果としては、選果設備を使って仕分けしたみかんと、搾汁後検査するみかんの品質がほぼ一致し、安心して品質別(糖度別)果汁の製造に取り組むことができている。みかんの選別→搾汁→製品づくりまでの流れがよりスムーズになったことから、受注量の増加にも難なく対応することができており、製品づくりの基礎をしっかりと固められた。そのほか、協力農家からのみかんの仕入時も糖度に合わせた正確な値決めもできるようになり、仕入面での精度も向上している。

それでも現状の糖度(品質)の分類基準には満足しておらず、さらに改良を加えて、より細かくしていきたいと考えている。より細かくすることで、製品づくりに幅を出すことが期待できるからだ。



▲多種多様なみかん加工品

今後の展開

みかんの皮の有効活用も検討 地域をさらに牽引できる企業へ

現在、温州みかんを軸とした加工品を多数揃えている同社だが、さらに温州みかん関連加工品のラインナップを増やしていきたいと考えている。具体的には、今回導入した新型光センサー選果機を用いて、さらに細かい糖度に分けて製品開発を進め、みかんを使った調味料や医療介護分野向けの製品の開発に挑戦する意向である。

また、これまで廃棄してきたみかんの皮を有効活用することも考えている。みかんの皮の使用法としては、漢方薬

の陳皮の原料になる他、近年では花粉症緩和やガン予防に効果があるとの研究も発表されており、みかんの皮は大きな可能性を秘めているようだ。

中長期的な展望としては、海外への加工品輸出を含めて出荷能力を高めることで、みかん農家の収入アップと地域の雇用創出に引き続き、注力していくつもりだ。社内では、新卒採用を継続的に進めてきたことから若手社員も育ってきている。若さも武器に企業としてもう一皮剥けたいところだ。



▲可能性が秘めているみかんの皮



▲加工場前にて